

新規参入者集積地域における参入動機の特徴と経営実態に関する研究 —北海道余市町を事例に—

共生基盤学専攻 共生農業資源経済学講座 地域連携経済学 鄭 龍暲

1. 問題意識と課題

1980年代に入ってから反都市化（Counter Urbanization）と呼ばれる人口移動の特徴がみられた。日本においても、Iターン、Jターンと呼ばれる人口移動が見られるようになっていく。これまでの北海道における農村社会の把握については、都府県のイエ・ムラ論をベースにした議論では解明されず、「農事実行組合型」としてその農業生産振興を推進するための組織という機能的に形成された社会として把握されたが、その後についての研究はない。

その中で余市町は、多様な価値観を求めて農村に参入する者が多い。そして、そうした価値観が、これからの北海道の農村社会形成において果たしうる意義について考察する。

本研究では、余市町における新規参入者の参入動機と求める営農形態から、彼らの価値観を持続的農村社会に必要な価値観として取り上げ、実際の彼らの価値観がどのように経営形態に実現されているのかを明らかにする。それによって、これまでの生産力視点の農村社会に、新たな価値観がもたらされることで、地域がどのようにそれに反応しているのかを明らかにすることができると思う。

今回は、そうした問題意識のもとで、農村社会の反応については今後の課題とするが、まずは、どのような価値観を持った人たちがなぜ余市町に参入しているのかという点の実態解明を課題とする。

2. 研究方法

本研究では、余市町における新規参入者の実態調査を通して彼らの参入経緯から現在の営農形態とこれからの意向について明らかにする。また、彼らが持っている価値観で彼らを分類し、それぞれの特徴と課題を明らかにすることで研究の課題を達成する。

調査は、余市町における23戸の新規参入者に聞き取り調査を行なった。

3. 結論

調査の結果、余市町における新規参入者はその参入動機が様々であり、その結果、求めている経営形態も様々である。特に、時代によって自己満足の実現より地域の発展のために参入してくる人々が増加していることが大きい特徴である。

その中で、彼らの農業・農村に対する価値観はこれからの農村の形成、つまり持続的農村の形成に大きい影響を与えると考えられる。

本研究では、彼らの価値観を「経済価値」、「生活価値」、「生態環境価値」、「地域発展価値」に分類し、それぞれの特徴と課題を明らかにした。その課題として、経済的安定性・地域との連携・農業時節問題が挙げられる。

このような課題をまとめると、最終的な理想的価値観は4つの価値観を調和させた価値である。それを求めるには様々な困難があると考えられるが、地域・機関・農家が連携し、その理想的価値を図っていく必要がある。